

部分的核実験禁止条約改定会議での市長演説

議長、ご列席の各国代表の皆様。

私は長崎市長の本島 等です。本日、世界平和連帯都市市長会議の副会長として発言の機会を得ましたことを光栄に思います。

1945年8月9日、第2次世界大戦の末期、長崎の街は一発の原子爆弾によって死の街と化しました。爆発の瞬間、数千度の熱線、巨大な爆圧、恐るべき放射能が地上に襲いかかりました。

男も女も、大人も、子供も、焼かれ、吹き飛ばされ、無惨に死んでいきました。墨々たる死体、水を求めてさまよう負傷者の群れ、親を求め泣き叫ぶ子供・・・まさに地獄絵でした。数ヶ月のうちに7万4千もの人々が亡くなりました。

今日、多くの被爆者が孤独、老齡、差別やケロイド、血液疾患、悪性腫瘍など後障害のために苦しんでいます。

私は被爆都市の市長として、彼等の悲痛な叫びを皆様に伝えるためにここにいます。原爆による被害は46年前の歴史上の出来事ではないのです。私たちは、核兵器が人類滅亡をもたらす究極兵器であることを知ったのです。核兵器による惨事は長崎をもって最後にしてほしいのです。

同時に私たちは戦争責任について反省しなければならないと思います。原爆は我が国のアジア諸国侵略への結果として投下されたからであります。まず私たちの過去の戦争への反省がなければ、核兵器廃絶の訴えも世界の人々に届かないことを認識すべきであります。

今日、世界は冷戦体制に終止符を打ち、対立から対話へ、競争から協調へと大きく変化していますが、核保有国は核抑止力の名の下に人類を何度も全滅させるに余りある核兵器を保有し、核実験を続けています。また、中東、アジア、アフリカ、中南米においては地域紛争の絶える間がありません。

人類は、明日への夢と未来への希望を抱いて今日の文明を築いてきました。しかし、人類は人類全体を絶滅させる悪魔の兵器－核兵器を手にしました。人類滅亡の雛形を体験した被爆都市の市長として、私は21世紀までの10年間、世界の人々が人類の英知を結集して次のことを努力するよう訴えます。

1. 核実験全面禁止のための国際協定の締結

核実験は核兵器開発競争の元凶となっています。検証などの問題はありますが、地下実験を含むすべての核実験の即時中止こそが核兵器廃絶への第一歩であります。

2. 20世紀中に核兵器、生物・化学兵器の全廃を実現しよう。

人間が20世紀に作り出した悪魔の兵器は、人間自らの手で20世紀中に廃絶してしまわなければなりません。

3. 軍縮から開発へ

今日9千5百億ドルとも言われる軍事費の増大が経済発展の障害となっています。軍事費を削減し、その資金を民需産業の発展と発展途上国の開発援助に振り向けなければなりません。

4. 世界平和を阻害する諸問題の解決に努力しよう。

世界には環境破壊、人権抑圧、差別、飢餓、難民、疾病、麻薬、貧困、失業等の諸問題があります。これらの問題の解決なしには真の平和はあり得ません。

また平和のために努力している世界のNGOに訴えます。

1. 草の根平和運動のネットワークを広げよう。

私たち草の根運動の力はたとえ小さくとも、結集すれば世界の政治を動かす原動力となります。世界平和連帯都市市長会議に加盟している49カ国288都市の市長は、相互の交流を深めながら核兵器廃絶に向けて国際世論を喚起しよう。

2. 非核都市から非核地帯へ

世界25カ国に4,600以上もの非核宣言都市があります。世界各地で非核都市が手を結び、非核地帯の実現に努力しよう。

3. 平和と正義を子供に教えよう。

21世紀を担う子供たちに平和の尊さを訴え、人権、正義を尊重する心を育てましょう。

平和こそが私たちが子孫に残すべき唯一の遺産であります。私たちはこの美しい地球と人間の愛を21世紀の子供たちに残してやろうではありませんか。

どうもありがとうございました。